

中国日本商会

みつま

三渚先生の

「ナルホド中国、ナットク中国」



三渚コラム 中国「津津有味」-12

最近、人民日報でよく見かけるのが “工匠精神”（職人氣質）に関する記事。2015年のメーデーにおける習近平の重要講話をきっかけに、CCTV系列が同休暇期間にく<大国工匠>を放映、8人の優秀な産業労働技術者を「労働で中国の夢を支える」と紹介、その後、“工匠”育成を提唱する記事が急増しました。もちろんそれには前提があり、前年の2014年2月、すでに国務院常務会議で現代職業教育発展加速に関する段取りが提示されています。その趣旨は「技術の進歩、生産方式の変革、社会の公共サービスに見合った、産業と教育が深く融合した現代職業教育発展の加速」「1億人を超えるエンジニア、ハイレベルの技術労働者、質の高い職業別人材の育成」で、“新常态”（ニューノーマル）と呼ばれる経済調整期をうまく乗り切り、次なる発展につなげるには、経済構造のモデルチェンジとグレードアップが不可欠、それにはまず人材養成を」ということです。この方針に沿って、同年6月、習近平は全国職業教育工作会議で「重要指示」を行い、国務院からは<現代職業教育の発展を加速させることに関する決定>が配布され、「今後一定期間における指導思想・基本原則・目標任務・政策措置を明確化し、2020年には中国独自かつ世界に通用する職業教育体系を打ち建てること」が提唱されました。

現在、しきりに謳われている「供給側の改革」とは2015年11月中央経済工作会议で提起されたもので、国内消費の育成、公共投資、輸出の振興に関する「労働力・資本・資源・経済構造・技術・制度」の改革を指し、これは第13次5か年計画（2016～2020年）の柱の一つにもなっていますが、中でも、技術革新は非常に重要視され、すでに2013年の18期3中全会で、「イノベーションにおける企業の主体的地位を強化する」として、「知財権の運用保護の強化、産学協同の推進と基礎研究の重視」が、2014年の4中全会では、科学技術の成果の産業化体制・システムおよび知財権制度の整備が盛り込まれる一方、国家科学技術賞の表彰でも、自主的技術革新と重大な発明創造に力点を移し、基礎研究が専門家の推薦を得られるような改善が進められました。

これに合わせ、起業・産学共同・ブランド確立の奨励など関連する様々な改革に国を挙げて取り組む姿勢が顕著になってきていますが、それを支えるのが優秀な人材であり、2015年秋の18期五中全会では、人材優勢発展戦略として「天下の英才を集めて人材強国を建設」することが強調されましたが、そのベースとなるのが工匠精神”（職人氣質）だということに中国が目覚めたのです。その結果、《咬文嚼字》雑誌による2016年十大流行語には“工匠精神”が選出されました。職人氣質と言えば日本やドイツ。世界に冠たるその精神や技術を紹介する記事も最近では度々見かけるようになりました。

では、現代中国人は“工匠精神”の内容をどう捉えているのでしょうか。一部を紹介しましょう。「仕事を深く愛すること」（万科集团董事会主席）、「精魂を傾け、さらなる向上を目指すこと」（美的集团副总裁）。「99.99%の上に101%を追求すること」（青島啤酒総裁）、「目の届かないところも手抜きをしないこと」（小米公司董事長）、「自分のことをしっかりやり、他人を盛り立てること」（蘇寧集团董事長）。さて、皆さんはどう思いますか。